

宮崎市立木花中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

木花中学校は、昭和22年5月に「木花村立木花中学校」として設立され、今年59年目を迎えている。宮崎市の南に位置し、校区内に「宮崎大学」「県運動公園」「青島少年自然の家」を有している。平成3年、鏡洲中学校との統合を機に現在の位置に新校舎が造られた。新興住宅地にある学園木花台小学校、昔ながらの田園風景が広がる木花小学校、山あいの鏡洲小学校、三つの小学校から本校に入学してくる。

2 生徒の実態

(1) 生徒数～平成17年10月現在

	男子	女子	計
第1学年	70人	80人	150人
第2学年	72人	62人	134人
第3学年	104人	79人	183人
計	246人	221人	467人



(2) 生活面

- ① ほとんどの生徒が基本的な生活習慣を身に付けており、落ち着いた学校生活を送っている。
- ② 清掃への取組は大変良いが、挨拶は今一步の状況である。
- ③ 指示されたことには素直に行動できるが自主的な取組が弱いため、特別活動領域を中心に意図的な指導を継続中である。
- ④ 部活動加入率は約75%である。

(3) 学習面

- ① 授業態度はおおむね良好であるが、課題の未提出や学習用具の忘れ物が一部にある。
- ② 全ての教科の平均到達度及び達成率が県平均を上回っている。
- ③ 学習意識調査の結果、県平均を下回っているものは、「学習定着のための方略」と「自宅学習習慣」「授業を受ける姿勢」及び「問題解決力」である。
- ④ 教え合う雰囲気がとても良く、勉強の苦手な生徒も積極的に問題に取り組み、友達とともに学習しようとする姿が見られる。
- ⑤ 家庭学習の定着が図れていないためにその場限りの学習となっている生徒もいる。
- ⑥ 約5割の生徒が通塾している。

3 学力向上に向けた経営方針

- (1) 分かりやすい指導過程の工夫
- (2) 基礎的・基本的な内容のくり返し指導の徹底（週末課題、確認テスト、単元テスト）
- (3) 家庭学習の習慣化を図るための指導と家庭との連携
- (4) 個別指導の在り方
- (5) 個に応じた学習相談の在り方

4 教育課程内の取組

(1) 国語

- ① いろんな場面を想定して、話す活動を多く取り入れる。また、筋道立てた話し方や「声の表情」を意識した「話す」活動を取り入れる。
- ② 校内弁論大会に向けての意図的な取組を実施する。
- ③ 説明的文章の読解において、筆者の論理を丁寧におさえて読み進める学習に力を入れる。
- ④ 読解用ワークシートを作成・活用し、机間指導による個別指導を徹底する。
- ⑤ 辞書的な意味だけではなく、その場面に応じた読み取りを、根拠を交えて考えさせる学習に力を入れる。
- ⑥ 文学的な文章の読解の基本的な方法について、確実に定着させていく。
- ⑦ 日頃から読書に親しむように、様々な機会をとらえて読書指導に力を入れていく。また、朝の読書の定着を図る。
- ⑧ 小テストや単元別テストを継続して定期的に行う。

(2) 社会

- ① 思考力、表現力、資料読み取りを中心に授業を行う。
- ② これまで1回、課題解決学習を行った。意欲や興味が長続きする授業づくりをしていきたい。

(3) 数学

- ① 教え合い学習を定期的を実施する。
- ② 前時の確認テストを実施する。



教え合い学習の様子

(4) 理科

- ① 復習プリント～小単元5～10分で実施する。
- ② 小単元テスト～単元終了時15分～20分で実施する。

(5) 英語

- ① クラスルームイングリッシュを日常的に行うことで英語を聞き、使うことに慣れさせる。また、聞き取り練習の場面を多く取り入れる。
- ② ①の手だてを強化するとともに、生徒同士が英語を使用する場面を多く設定する。ペア学習や教え合い学習を活用する。
- ③ 教師と生徒間の言語活動としてはQ&Aの内容を工夫し、意欲的に取り組ませる。
- ④ 英文を速く読む習慣をつけさせる。そのために時間設定や目標設定をして読みとり学習をさせる。週末課題や小テスト、単元テストで語彙力や基本文力をつけ、英文を読みとるための基礎力を養う。

(6) 特別活動

- ① 学級活動の時間で、授業の受け方や家庭学習の在り方を定期的な振り返りかえさせる。
- ② 総合的な学習の時間で、学習相談を実施する。

5 教育課程外の取組

(1) 国語

- ① 週末課題に取り組ませ、問題を解く実践力の育成を図る。
- ② 授業中実施した各種テストの結果により、必要に応じて、個別指導や再テストを実施して、学習内容の定着の徹底を図る。
- ③ 毎週木曜日の朝自習時間帯に確認テストを実施して、意図的・計画的に漢字力の向上を図る。
- ④ 各種作文コンクールに積極的に応募し、作文や読書に対する意欲を喚起する。
- ⑤ 月一回、図書室を利用して、読書指導を行う。

(2) 社会

- ① 週に2～3回、反復を中心とする基礎的な課題に定期的に取り組ませる。

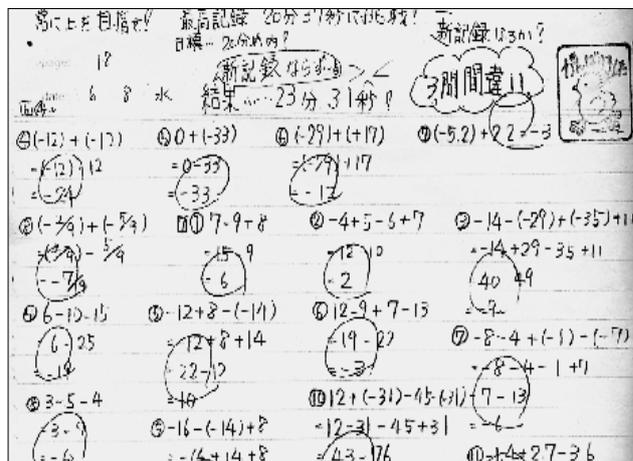
(3) 数学

① 家庭学習の定着

家庭学習の充実と基礎・基本の定着を図るために、1，2年生は計算を中心に毎日1ページずつ、数学の宅習に取り組ませている。また、既習内容の定着を図るために、授業での類似問題を中心に週末課題のプリントを与えている。

② 確認テストの実施

宅習の定着をより図るためや、計算が正確に速くできるようになるために木曜日の朝自習は確認テストを行っている。各教科1ヶ月間交替で取り組み、同じ問題を3～4回のテストで繰り返し行う。



数学宅習ノート

(4) 理科

- ① 週2回20分、朝自習プリントで基本問題に取り組ませる。

(5) 英語

- ① 週末課題～毎週、週末課題に継続的に取り組ませ、未提出者は昼休みに指導を行う。
- ② 確認テストの実施～単語や基本文等の基本的な力を習得させるために、毎週木曜日の朝自習時間帯に実施する。

(6) 個別指導の充実

- ① 課題の達成度や提出状況のよくない生徒については、昼休みや放課後を利用して、個別指導を行う。
- ② 長期休業中の希望者による学習会を実施する。
- ③ 個に応じた学習相談を実施する。

6 保護者・家庭、地域との連携

- (1) 参観日に、授業参観の手引きを配付し、授業内容についての説明を行い、家庭学習のポイントを知らせる。
- (2) 参観日に学力の実態や取組についての資料を配付する。
- (3) 家庭学習を習慣化させるために、家庭学習の手引きを作成し家庭の協力を得る。

7 成果と課題

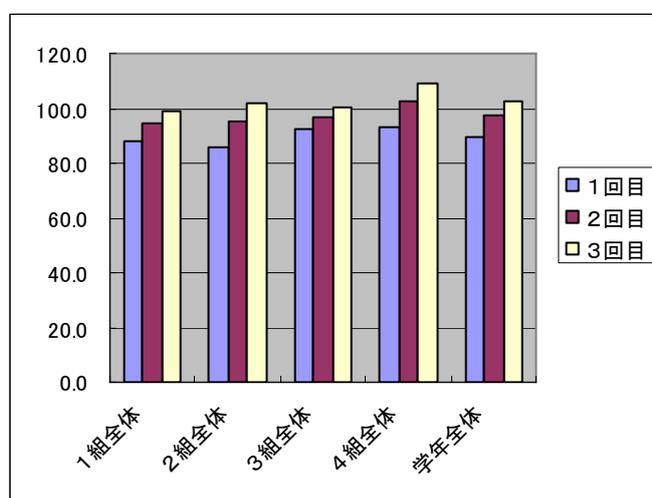
(1) 成果

① 週末課題

- その週に学習した単元の基本的な問題と解答を週末に配付し課題として取り組ませることにより、基礎的・基本的な内容の定着が図られている。

② 確認テスト（国・数・英）

- 生徒自身も間違いを次の回のテストでは克服し、進歩の様子があはつきりと表れるので、ほとんどの生徒の漢字力や単語力、計算力などの基礎的な学力は確実に向上してきている。
- 前回よりもアップ率の高い生徒はプリントや掲示により他に紹介することにより、次への意欲づけにつながった。



(2) 課題

- ① 学力の二極化傾向があり、下位生徒の個別指導の充実が必要である。授業内での理解のさせ方や家庭での学習の仕方など、保護者と連携を図りながら取り組まなければならない。
- ② 個別指導や学習相談を定期的に行いたいと思うが、なかなか時間がなく思うような実施ができない。
- ③ 限られた授業時数の中での、問題解決的な学習と基礎的・基本的事項の定着を図るドリル的な学習とのバランスが難しい。